

インドネシア留学生（コミュニケーション障害学科） が附属診療センターでの見学実習を修了しました

2014年9月からコミュニケーション障害学科に留学中のインドネシア教育大学のノビアさんが、小児科診療1回、作業療法1回、言語聴覚療法5回、計7回の附属診療センターでの見学実習を修了し、実習証明書が交付されました。

「見学実習では、初めて経験することも多く、とても新鮮で有意義な時間を過ごすことができました。まず、驚いたのは、出会った人たちが、私の持っていたイメージと違ってのことです。たとえば、インドネシアでは、自分の意見や質問を伝えることができるような自閉症スペクトラムの子どもは診断されていないので、支援の対象になっていません。また、小児科の先生が多動な子どもの治療やアドバイスをすることも初めて知りました。医師や看護師、PT、OT、ST、ソーシャルワーカーなど、さまざまな職種の人が協力する支援システムが進んでいることが印象的でした。今回、学んだことを、特別支援教育の勉強をしている後輩に伝えたいと思います。」とのノビアさんの感想でした。今後の勉学やキャリアに活かされることを期待したいと思います。

